

30 農技号外
平成 30 年(2018 年) 9 月 5 日

各市町村長
農業協同組合長 様
共和園協

長野農業改良普及センター所長

台風 21 号による農作物被害に対する応急技術対策について（通知）

台風 21 号の強風、降雨により農作物に被害が発生しています。

つきましては、被害を最小限にするため、「農作物災害対策指針」及び別紙「台風21号の被害に対する農作物の技術対策について」により、農業者への周知・指導をお願いします。

なお、農業者への周知にあたっては、情報が早期に行き届くよう多様な伝達手段を活用し、対応願います。

担当課	長野農業改良普及センター
担当者	森山 隆弘（所長） 宮崎 早苗（課長補佐兼係長）
電 話	026-234-9536
F A X	026-235-8393
電子メール	nagano-aec@pref.nagano.lg.jp

(別紙)

台風 21 号の被害に対する農作物の技術対策について

平成 30 年(2018 年)9 月 5 日

農業技術課

1 施設（共通）

- (1) 施設の被害が発生した場合、できる限り早期に施設の破損状況等の点検を行うとともに、修復が可能な場合には、早急に修理し、栽培作物の生育障害等の被害を防止する。

2 作物

- (1) 水稻
 - ア 倒伏した水田は早急に排水して、稲体を引き起こし、茎葉の腐敗や穂発芽を防ぐ。
 - イ 浸水、冠水した水田は速やかに排水に努める。
 - ウ 倒れたハゼは早急に立て直し、乾燥を促して穂発芽を防ぐ。
- (2) 大豆
 - 滞水したほ場では、速やかな排水に努める。
- (3) そば
 - 滞水したほ場では、速やかな排水に努める。

3 果樹

- (1) 葉や果実が風雨にもまれ損傷しているので、定期防除を実施するか、特別散布を行う。防除に当たっては、農薬の使用基準を遵守する。
- (2) 樹体が倒伏した場合
 - ア 倒伏して根が露出した樹は、断根しないよう注意しながら早期に立て直す。
 - イ 果実の着果が多く立て直しが困難な場合は、根を土で覆うなど応急措置を行い、本格的な復旧は後日もしくは休眠期に行う。
 - ウ 断根程度が軽い場合は果実生産を継続する。
 - エ 断根程度がひどい場合は、再度摘果を行って着果量を減らし、樹体維持を優先する。
- (3) 骨格枝が損傷した場合
 - ア 大枝が裂けたものは、ボルトやカスガイで固定するか、縄でしばって、支柱で補強し、傷口を接合させる。完全に裂けたものは傷口を滑らかに削り、塗布剤を塗布する。枝の損傷程度がひどい場合は、着果量を減らす。
 - イ 枝の損傷部には農薬登録のある塗布剤を塗布し保護する。
- (4) 棚や施設が損壊した場合（なし、ぶどう、りんご等）

ア なし、ぶどう棚が倒伏した場合は、修復できる範囲で棚面を持ち上げ、収穫期まで維持する。収穫後はなるべく早く修復・復旧する。

イ りんごわい化栽培ではトレリスの傾きやゆるみは、修復できる範囲で復旧し、それ以上傾いたりゆるんだりしないよう補強する。本格的な復旧は収穫後に実施する。

(5) 損傷した果実の取扱い

樹上の損傷果実は、集出荷先と十分協議して、取扱い方針を決める。

4 野菜

(1) 病害の発生を防止するため、農薬登録を遵守したうえで薬剤散布を行う。

(2) 露地のきゅうり、アスパラガス、ながいもなどの支柱が倒伏した場合は、静かに支柱を起こすとともに、速やかに殺菌剤を散布し病害の発生を防ぐ。また、草勢を維持するため、様子を見て葉面散布などを行う。

(3) 生育初期において被害を受けた場合は、予備苗による植え替えやまき直しを検討する。

5 花き

(1) リンドウなどの露地品目が倒伏した場合は、茎の曲りを防ぐため、できるだけ早く支柱を立て直し、ネットにより株を引き起こす。

(2) 風によるスレで茎葉が損傷している場合は、十分な薬量で殺菌剤を散布する。

6 飼料作物（飼料用とうもろこし、ソルガム）

(1) 倒伏し、泥等による汚染が激しい飼料用とうもろこし、ソルガムは収穫しない。また、倒伏の多い部分は刈り分して収穫しない。

(2) 収穫が可能な軽微な倒伏や折損の場合であれば早目に収穫する。折損ではなく寝ころびの場合は立ち上がりを待って収穫する。

(3) 土壌の混入を防止するため、高刈りでは倒れた先の雄穂側から起こしながら収穫する。

(4) 乳酸菌添加材を使用する（二次発酵抑制タイプの資材を使用する）。

7 鳥獣害対策

(1) 鳥獣害対策の侵入防止柵（物理柵・電気柵等）を点検し、破損が発見された場合は速やかに修繕する。